



6月芽室町定例会議 『菊池』の一般質問



若者が暮らし続けたい町へ、芽室の“定住戦略”と町のビジョンを問う！



多様化する移住・定住の対応について

全国的な人口減少と都市部への人口集中が進む中、地方自治体

における定住促進は喫緊の課題です。本町では「第5期芽室町総合計画後期実施計画」において、「移住定住の促進と関係人口・交流人口の創出」を掲げ、この実現に向けた方策として、定住促進奨励制度、住宅リフォーム等奨励事業、芽室町移住支援金の運用及び移住相談体制の整備など、様々な取組みを展開しています。

年々、移住・定住のニーズは多様化し、特に若者世代が定住を決断する際、雇用、教育、医療、交通といった生活全般に関わる条件が整っていることや、地域コミュニティの存在も重要な要素となることから、今後、本町において、ニーズを踏まえた実効性のある施策展開が求められていると考え、次の2点について町長の見解を伺います。

質問①：本町における「定住促進事業」のこれまでの成果と課題及び将来に向けた方策や展望について、見解を伺います。

質問②：本町において「若者が安心して暮らし、活躍できる環境」を実現するにあたり、町内全域を対象とした定住促進戦略と目標について見解を伺います。

今回の一般質問では、

多様化する移住・定住の対応について、これまでの取り組みと課題認識の確認を行い、町内全域を対象とした定住促進戦略と目標について

町の考えを伺いました。これまでの町の取り組みは、「定住促進プロジェクト」を設定し事業推進をしてきているとのことでした。課題としては、「ニーズにあった住宅の確保」や、「移住・定住後の仕事の確保」などがあり、関係団体との連携や、新たな助成制度の創設などで対応していくとのことでした。私からは、定住促進は単なる「人口確保」の政策ではなく、「芽室町の未来を誰が担うか」を考える重要な柱であること申し添えて、持続可能な定住政策の展開も踏まえた町長の思いを伺いました。

一般質問の録画中継はこちら >>>



令和7年度芽室町一般会計補正予算（第2号）

今回の補正予算では、6月定例会議最終日に新嵐山スカイパーク運営支援事業における追加予算（メモロスキー場自動改札機導入及び新たな消費喚起事業について）について審議しました。

○ 新嵐山スカイパーク運営支援事業

【補正予算の概要】デジタル技術を活用することにより、スキー場における利用者の利便性向上と省力化・人手不足解消を目指すとともに、商店会と連携した新たな消費喚起事業を、国の交付金を活用して実施する。

【詳細（予算額など）】

1) 自動改札機導入

- ア) 自動改札機購入費 41,767 千円
イ) WEB 決済手数料 165 千円

2) 新たな消費喚起事業

- ア) 町内消費喚起事業助成金 700 千円

【予算】総額：1)ア) + 1)イ) + 2)ア) = 42,632千円

【財源】

- 1) 新しい地方経済・生活環境創生交付金(デジタル実装型)20,528 千円(別途、普通交付税の増額交付あり)
2) いきいきふるさと推進事業助成金(公益財団法人北海道市町村振興協会)5,000 千円
3) IC リフト券利用者負担金(デポジット)500 千円

【あのスキー場に自動改札？はたして予算の行方は…】

特別委員会にて以下の論点について調査を行い審議に臨みました。

- 1) 「新嵐山スカイパーク再生基本構想（案）」との整合性
2) 「スキー場運営の全体構想」との整合性
3) 「緊急性」の定義・根拠

討論などの>>>>
録画中継はこちら



町議会議員／菊池秀明の日常のあれこれ

6月末から7月にかけては、参議院選挙に関連した活動に追われる日々を過ごしました。選挙期間中は、少ない人数での選挙ポスター貼りなど大変でした。私は主に浦幌や豊頃のパスター貼りを担当しましたが、山の中で電波の届かない場所では、掲示箇所を見つけるのにも苦労しました。また夜遅くなると鹿や狸、狐などの動物を頻繁に見かけ大自然を感じる日々でした。忙しい期間でしたが、活動を経て新たな出会いもあり充実した時間を過ごせました。



参政党とは、「仲間内の利益を優先する既存の政党政治では、私たちの祖先が守ってきたかけがえのない日本がダメになってしまう」という危機感を持った有志が集まり、ゼロからつくった政治団体です。特定の支援団体も、資金源もありません。同じ思いを持った普通の国民が集まり、知恵やお金を出し合い、自分たちで党運営を行っています。

国民が政治に参加する／

参政党
SANSEITO

参政党に党員として参加希望

のかたは、参政党ホームページより参加できます。

右記 QR コードをチェック！

